

## 過去の作業再開が新たな参加機会に繋がった事例 ～ねんりんピックに参加してみませんか～

○坂本 一郎<sup>1)</sup>

1) 医療法人 さとに田園クリニック

---

Keywords: 訪問リハビリテーション, 社会資源, 参加

### 【はじめに】

昨今、地域共生社会の実現に向け、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて繋がることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていくことが求められている。今回、過去の作業再開により新たな社会資源と繋がった為、以下に報告する。なお、発表にあたり事例本人へ説明を行い書面にて同意を得ている。

### 【事例紹介】

A 氏 60 歳代の男性。幼少期に脳性麻痺、18 年前に頸髄症にて椎弓形成術、固定術を受けている。約 1 年前に障害保険から介護保険へ切替え、その際に心身機能維持を目的に訪問リハビリテーション開始、継続中である。県営住宅で独居生活。介護認定は要支援 2。訪問介護を週 3 回、就労継続支援 B 型を週 3 回利用。趣味の一つに将棋がある。

### 【作業療法評価】

認知機能 (HDS-R) は 28/30 点、コミュニケーション良好である。BI は 75/100 点 (食事、整容、入浴、歩行、更衣は部分介助)。移動能力 (TUG) は 25 秒。下肢両側に内反尖足あり歩行時に不安定も、動作指導、筋力およびバランス訓練にて良好傾向。近隣移動は両下肢 SLB 装着と歩行器にて安定している。遠方の場合は 1 本杖だが動揺激しく以前に年数回転倒の経験があったとのこと。両肩関節に関節可動域制限あり T シャツの着衣が難しいが、自助具又は訪問介護の一部介助にて対応可能である。訪問介護と役割分担し出来る家事は自分で行う。趣味の一つとして将棋があるが駒と盤は居室の片隅に転がり使われた形跡はない。

### 【介入方針】

定期受診時に右手掌の疼痛を相談、医師より杖の再選定の提案があり一部計画を見直す。合わせて作業活動として将棋を提案、導入する。合意目標を「ねんりんピックの将棋予選会に参加する」とした。

### 【介入計画】

プログラム: ①機能訓練 (筋力訓練、可動域訓練、バランス訓練等) ②歩行訓練 (屋内・屋外、玄関動作含む) ③環境調整 (杖の選定及び調整)、④作業活動 (将棋) を週 1 回 40 分実施した。

### 【経過】

1～5 週目: 手掌の疼痛評価、バランス不良から必要以上に杖の柄を把握し負担が掛かっていると推察、ロフトランド杖を提案し一緒に選定を行う。選定中、外出時に転倒し胸部打撲するも骨折なく短期静養となる。この際、安定した移動獲得後の目標としてねんりんピック将棋予選会の参加を提案、合意する。6～24 週目: ロフトランド杖導入、屋外歩行練習を再開する。グリップは以前の 1 本杖より径が大きく把持し易いため握り込みが抑制され痛み軽減傾向にある。坂道や階段の昇降などの訓練も合わせて実施。将棋は毎月第 2 週目を定例とし実施した。将棋の際は OT に指導や助言するなど今までにない一面を見る機会となった。25～36 週目: 将棋予選会の通知があり本人と参加の意向を確認の後、申請書を作成し提出する。直前には当日の予定など再確認を行う。当日は本人のみの参加となるが翌週に結果報告を受ける。結果は「惨敗だったが良い経験になった」と笑顔で報告を受ける。対局時計の操作について自分の状態を伝え大目に見て貰ったと柔軟な対応も行っていた様である。

### 【結果】

認知機能 (HDS-R) は 25/30 点 (流暢性で減点) もコミュニケーションや私生活への影響はない。移動能力 (TUG) は 19.5 秒、立ち座り、歩行いずれも円滑化し質的变化もみられる。機能訓練により歩行時の筋緊張抑制、随意性向上に伴いゆっくり歩くことができ安定性も増した。ロフトランド杖の順応に伴い屋外歩行も良好し安定傾向、過剰把握による手掌疼痛も改善した。将棋は本人も楽しみにしており、最中には笑顔が絶えず所々 OT へ助言や指導を行いながら行っている。目標としていたねんりんピック予選会にも参加することもでき「良い経験になった」と前向きな発言が聴かれた。

### 【考察】

一定期間、リハビリテーションを継続する場合はマンネリズムが生じ易い。そうした状況において作業を再確認することは本人のアイデンティティを想起させ、新たな目標設定や活動・参加の展開へ繋がる重要な工程になる可能性がある。また、円滑に社会資源と繋ぐためにはフォーマル、インフォーマルに関わらず情報収集や参加を通じ手段を広げておくことが重要である。